

授業科目名： 小学校国語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：宇賀神 一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1）国語＝日本語の言語としての特質に関心をもつ。 2）相手・目的・状況・方法・評価に関して明確な認識をもち言語活動を行うことができる。 3）さまざまなジャンルの読書経験により触れた多様な表現を、自らの文章に反映できる。			
授業の概要			
大学生活・社会生活を営むうえで必要になる言語にまつわる読むこと・書くこと・話すこと・聞くことに関する知識・技術や、言語を用いた論理的な思考・表現の方法を学ぶ。また、小学校国語科の授業について考えていくための基盤となる、国語＝日本語に対する広範な知識の獲得を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 「国語」とはなにか 第2回：文字言語・音声言語としてみた日本語の特徴 第3回：文学作品の読書経験 第4回：論理的文章の読書経験 第5回：話し合いとディベート 第6回：日本語の伝統を学ぶ（書写含む） 第7回：レポートの作成方法 第8回：まとめ			
テキスト			
授業中に適宜紹介する。			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価			
授業への取り組み・課題の提出状況（60％）、最終レポート（40％）を合計して評価する。			

授業科目名： 小学校算数	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：草場 聡宏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 小学校算数科で取扱われている内容の背景にある数学について理解・考察できる。			
2) 小学校算数科で取扱われている内容の背景にある数学的見方・考え方について理解・考察できる。			
3) 算数・数学が身のまわりでどのように用いられているのかについて、理解・考察できる。			
授業の概要			
小学校算数で取り扱う教材の背景にどのような数学や数学的見方・考え方が潜んでいるのかについて、実際に活動や問題の解決を取り入れながら概説し、算数をより数学的な立場から考察していく			
授業計画			
第1回：ガイダンス、算数教育の目標			
第2回：「数の概念と表現」「整数」「整数の計算」			
第3回：「小数・分数の概念と表現」「小数・分数の計算」			
第4回：「図形の概念・図形の性質」「作図法」「面積・体積」			
第5回：「量の概念」「単位と接頭辞」			
第6回：「割合」「関数概念」			
第7回：「データの活用」「グラフの活用」「統計的な問題解決の過程」			
第8回：「数学的活動」 定期テスト			
テキスト			
文部科学省 「小学校学習指導要領解説 算数編(平成29年3月告示)」			
参考書・参考資料等			
必要に応じて、授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
毎回の小テスト(40)、定期テスト(40)、授業態度(20)			

授業科目名： 小学校理科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 飯盛（小倉） 啓生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 ○小学校の理科科目における内容について見識を深め、その内容について理解する。 ○1) エネルギー・磁石の種類と性質について理解することができる。2) 電気の利用とその性質について理解することができる。3) てこ・つりあいについて理解することができる。4) 金属の性質について理解することができる。5) 物の燃え方について理解することができる。6) 水溶液の性質について理解することができる。7) 昆虫の体のつくりについて理解することができる。8) 植物のつくりと成長について理解することができる。9) 人の体について理解することができる。10) 流水の働きについて理解することができる。11) 天気の変化について理解することができる。12) 月と太陽、天体について理解することができる。13) 岩石および地質について理解することができる。			
授業の概要 小学校の理科科目における内容について見識を深め、その内容について理解する。			
授業計画 第1回：小学校理科の概要並びに本授業についての説明 第2回：エネルギーの種類と性質（磁石・電気） 第3回：てこ・つりあい 第4回：金属の性質について 第5回：物の燃え方 第6回：水溶液の性質 第7回：動植物について 第8回：地球の内部と表面、大気と水、天体について			
テキスト とくに指定しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じて適宜紹介する			
学生に対する評価 授業への参加態度、各講義後のレポートなどにより評価する。			

授業科目名： 小学校音楽	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：堀内 伊吹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：音楽と楽しく関わるための基本的な理論・表現・鑑賞学習について			
到達目標：基礎的な音楽理論を理解し、それを表現・鑑賞学習に活かすことができる。			
授業の概要			
児童に様々な音楽を提示し、その「音」に触れることにより、美的感性と情操が養える授業を教師が行うための、音楽の諸要素の基本（理論と実技）を学ぶ。			
授業計画			
第1回：音楽の3要素「リズム、メロディー、ハーモニー」について			
第2回：音の3要素「音の高さ、音の大きさ、音色」について			
第3回：音楽の仕組み、音楽の歴史、そして音楽理論の基礎について			
第4回：基礎的な表現能力としての歌唱、合唱			
第5回：基礎的な表現能力としての器楽（キーボードとリコーダー）			
第6回：豊かな鑑賞の能力を養うための年齢に応じた楽曲の提示について			
第7回：音楽教材を取り上げる時のポイント、音楽的な感性について			
第8回：児童が興味や関心を持って音楽と関わるために、教師ができることは何か。			
定期試験			
テキスト			
教員養成課程小学校音楽科教育法（2022年改訂版）（教育芸術社）			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
毎回の授業時における理解度（30％）、実技発表（30％）、定期試験（40％）			

授業科目名： 小学校家庭	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：本村 弥寿子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校における家庭科教育の役割や目標を知り、内容を理解する。 ・ 家庭科教育の特徴を理解し、説明することができる。 ・ 小学校学習指導要領家庭科の教科目標や内容について述べることができる。 ・ 家庭科教育の基礎的知識を理解し、説明することができる。			
授業の概要			
講義を通して小学校家庭科の基礎的知識を身に付けると共に、グループディスカッションやワークシートによりそれらの定着を図る。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、小学校家庭科の特徴について			
第2回：小学校学習指導要領の改訂点と家庭科の目標及び内容について			
第3回：家庭科の内容：A家族・家庭生活			
第4回：家庭科の内容：B衣食住の生活①（食生活）			
第5回：家庭科の内容：B衣食住の生活②（衣生活）			
第6回：家庭科の内容：B衣食住の生活③（住生活）			
第7回：家庭科の内容：C消費生活・環境			
第8回：小学校家庭科指導における配慮事項等について			
定期試験			
筆記試験を実施する			
テキスト			
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業者が準備し、受講者に配布する			
学生に対する評価			
筆記試験により、到達目標への到達度をもって評価する。			

授業科目名： 小学校体育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：管原 正志 市川 浩
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校における体育授業の意義やねらいを理解し、小学校体育の運動領域および保健領域の単元それぞれについて学ぶ。以下を到達目標として設定する。①小学校学習指導要領に示された体育科の目標および内容を理解する。②小学校教員に求められる各種運動の特性を理解し、基礎技能を身につける。③これらの運動を安全かつ楽しく実践し、その活動内容を説明できる。④小学校体育で学ぶ保健領域の内容を理解し、説明できる。			
授業の概要			
小学校体育の高学年（5、6年生）の運動領域の学習を通して、小学校体育の指導に必要な基礎的な能力を養う。各運動領域の特性を理解し、生涯スポーツ、心と体を融合した体づくり、課題解決学習等の観点から小学校体育の授業内容を理解する。			
授業計画			
第1回：講義 小学校における体育（市川）			
第2回：実技 体づくり運動（市川）			
第3回：実技 器械運動（市川）			
第4回：実技 陸上運動（管原）			
第5回：実技 ボール運動（管原）			
第6回：実技 表現運動（市川）			
第7回：講義 各運動領域における知識（市川）			
第8回：講義 保健（心の健康、けがの防止、病気の予防）（管原）			
定期試験			
テキスト			
教科書は指定しない。			
参考書・参考資料等			
小学校学習指導要領および解説体育編(2018)、小学校高学年体育（運動領域）デジタル教材			
学生に対する評価			
授業中の提出物（40％）と課題レポート（60％）で総合的に評価する。			

授業科目名： 小学校英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：園部 ニコル
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校の英語の教員のための英語力の習得を目標とする。そのために英語の発音やリズムを身につけ、クラスルーム・イングリッシュを場面ごとに的確に駆使できるように実践的訓練を行う。			
授業の概要			
小学校の英語教員が身につけるべき英語力として、特に「英語の発音とリズム」「物語の効果的な音読法」「使用場面を設定したClassroom English使用」に関して強化を目指す。反転授業形式で行う。			
授業計画			
第1回：英語の発音とリズムI（日本語の音の違い、アクセントとイントネーションの違い）			
第2回：英語の発音とリズムII（英語の歌を使ってリズムを学ぶ）			
第3回：物語の効果的な音読法I（“Brown Bear, Brown Bear, What do you see?”を読む）			
第4回：物語の効果的な音読法II（“The Very Hungry Caterpillar”を読む）			
第5回：Classroom English (1)（「授業開始」「授業終了」の表現）			
第6回：Classroom English(2)（「活動指示」の表現）			
第7回：Classroom English(3)（「児童との対話」の表現）			
第8回：Classroom English(4)（「ALTと対話」の表現）			
定期試験			
テキスト			
藤田保『先生のための英語練習ブック』（アルク）、 吉田研作『小学校の教室英語』（アルク）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価			
定期試験 50％、事前準備（反転授業形式）50％			

授業科目名： 小学校国語科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：宇賀神 一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1）言葉の学びを促す国語科の必要性を説明することができる。 2）国語科の目標・内容・指導法を踏まえて授業を構想できる。			
授業の概要 小学校国語科の役割を理解し、国語科の授業を実践するために必要な専門的知識・技能の基礎を修得することを目指す。国語科の目標や授業の構成、国語科をとおして育てるべき力などについて、言語に関する「知識・技能」及び「話す」「聞く」「書く」「読む」といった言語活動にまつわる「思考力・判断力・表現力」に即して学ぶとともに、国際化・情報化社会における国語科教育を実践する力量の獲得を目指す。			
授業計画 第1回：国語科教育の構造 第2回：「言語文化」と国語科 第3回：「読むこと」領域の目標と内容 第4回：「書くこと」領域の目標と内容 第5回：「話すこと・聞くこと」領域の目標と内容 第6回：指導案の作成と模擬授業の実施① 教材研究の実際 第7回：指導案の作成と模擬授業の実施② 指導法研究の実際 第8回：今日の国語科教育と情報通信技術の活用			
テキスト 文部科学省編『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社、2018年。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への取り組み・課題の提出状況（60%）、最終課題（40%）を合計して評価する			

授業科目名： 小学校社会科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松井 克行 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 社会		
授業のテーマ及び到達目標 小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された社会科の学習目標・学習内容・学習内容及びその背景となる社会科教育学の基礎的理解を深めるとともに、学習内容論、学習過程論、学習方法論等の指導理論を踏まえ、具体的な授業デザインの方法を身に付ける。			
授業の概要 小学校社会科の授業を、計画（P）・実施（D）・確認（C）・改善（A）していく具体的方法を身に付ける。社会科の内容とは、第3学年が市を中心とする地域社会に関する内容、第4学年が県を中心とする地域社会に関する内容、第5学年が日本の国土と産業に関する内容、第6学年が日本の政治と歴史、国際理解に関する内容である。			
授業計画 第1回：社会科の特質、小学校社会科の目標の変遷と教科課程の全体構造について 第2回：「覚える社会科」ではなく「考える社会科」の授業と単元指導計画について (例：第3学年の授業を中心に。教材研究、ICT活用を含む。) 第3回：「覚える社会科」ではなく「考える社会科」の授業と単元指導計画について (例：第4学年の授業を中心に。教材研究、ICT活用を含む。) 第4回：「覚える社会科」ではなく「考える社会科」の授業と単元指導計画について (例：第5学年の授業を中心に。教材研究、ICT活用、指導案の作成を含む。) 第5回：「覚える社会科」ではなく「考える社会科」の授業と単元指導計画について (例：第6学年の授業を中心に。教材研究、ICT活用、指導案の作成を含む。) 第6回：「覚える社会科」ではなく「考える社会科」の授業の評価方法について (教材研究を含む。) 第7回：「考える社会科」の模擬授業の実施とその振り返りと授業改善について (指導案の作成、模擬授業、ICT活用、電子黒板等の活用を含む) 第8回：内容解説 定期試験			
テキスト 文部科学省編『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』日本文教出版。及び適宜、自作資料を利用する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、レポート（指導案）（30％）、毎回の授業の最後に提出するワークシート（20％）			

授業科目名： 小学校算数科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：草場 聡宏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 算数		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について全体構造を理解している。			
2) 算数科の各学年における学習内容について指導上の留意点を理解している。			
3) 算数科の指導内容を踏まえ、教材のもつ数学的な背景について理解し、教材研究に活用することができる。			
4) 算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解している。			
5) 算数科指導における授業設計の重要性を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成することができる。			
授業の概要			
小学校算数科教育に関する基礎的な知識とその実践的展開力を身に付けることを主な目的とする。まず、小学校算数科のねらいと学年ごとの目標・指導内容を関連づけて理解する。また、教材研究の進め方、評価の内容・方法の基礎を身に付けて、学習指導案を作成する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、「算数教育の課題と小学校算数科の目標」			
第2回：「A 数と計算」各学年における「数と計算」の目標と指導内容			
第3回：「B 図形」各学年における「図形」の目標と指導内容			
第4回：「情報機器の活用」算数科における情報機器及び教材を活用した具体的な指導事例			
第5回：「C 測定」・「C 変化と関係」各学年における「測定」「変化と関係」の目標と指導内容			
第6回：「D データの活用」各学年における「データの活用」の目標と指導内容			
第7回：「評価の方法」「学習指導案の作成」			
第8回：小グループによる模擬授業の実施及び省察レポートの作成			
テキスト			
文部科学省 「小学校学習指導要領解説 算数編(平成29年3月告示)」			
鈴木将史 編著 「小学校算数科教育法」			
参考書・参考資料等			
必要に応じて、授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
小テスト(40)、指導案(30)、省察レポート(10)、授業態度(20)			

授業科目名： 小学校理科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 飯盛（小倉） 啓生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 理科		
授業のテーマ及び到達目標 ○初等教育における理科の指導法について、講義と実験を通して理解を深める。自然に親しみ、季節の変化を科学的に理解し、感動を伴う体験型の科学教育への取り組みについて学ぶ。 ○理科が好きな子どもを育てる授業の展開例を構築し、その学習方法について考察する。1)小学校における理科教育の位置づけについて理解することができる。2)学習指導要領の変遷と理科教育・授業について理解することができる。3)理科教育における安全性について理解することができる。4)講義を通して理科の指導法を理解することができる。5)学習指導案を作成し、科学的な観点から授業を行うことができる。			
授業の概要 初等教育における理科の指導法について、講義と実験を通して理解を深める。 自然に親しみ、季節の変化を科学的に理解し、感動を伴う体験型の科学教育への取り組みについて学ぶ。 理科が好きな子どもを育てる授業の展開例を構築し、その学習方法について考察する。			
授業計画 第1回：小学校における理科教育の位置づけについて 第2回：「エネルギー」分野の学習（教材研究を含む） 第3回：「生命」分野の学習（教材研究を含む） 第4回：「地球」分野の学習（教材研究を含む） 第5回：「粒子」分野の学習（教材研究を含む） 第6回：理科教育（実験）における事故例とその対策 第7回：学習指導案の作成法①（ICT機器の活用を含む） 第8回：学習指導案の作成法②（模擬授業の実施）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編、安藤秀俊著「小学校理科教育法」他、必要に応じて適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への参加態度、各講義後のレポートなどにより評価する			

授業科目名： 小学校生活科指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐々野 好継
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 生活		
授業のテーマ及び到達目標				
生活科は、児童の生活圏を学習対象とする。指導要領における目標や内容等を理解し、授業実践ができる資質・能力をめざす。				
授業の概要				
生活科における学習指導の構造について理解させる。効果的な指導を目指してICT機器等の活用のあり方についても学修する。児童の生活を反映させた指導計画および指導案を作成し、教材開発を行う。				
授業計画				
第1回：小学校教育における生活科の成立背景と意義				
第2回：生活科における学習指導の構造 ー目標・内容・指導ー				
第3回：生活科の目標と育成を目指す資質・能力				
第4回：生活科における内容の解釈構造と学習活動				
第5回：指導計画の作成と学習指導 ー他教科等との関わりー				
第6回：学習指導案の構成の理解と作成（情報通信技術の活用も含む）				
第7回：学習指導案に対応した教材開発				
第8回：授業実践を想定し模擬授業及びグループ・セッション				
定期試験				
テキスト				
文部科学省・小学校学習指導要領解説 生活編（最新版）				
参考書・参考資料等				
資料は適時配布する				
学生に対する評価				
授業への意欲・態度（20％）、小レポート（30％）、試験（50％）				

授業科目名： 小学校音楽科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：櫻井 琴音
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 音楽		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、小学校音楽科の表現及び鑑賞の指導法について学習する。到達目標は、学習指導要領小学校音楽科に示された教育目標、育成を目指す資質・能力について理解するとともに、小学校音楽科の学習内容の背景となる音楽科教育学の基礎的理論についての理解を深める。また、情報通信技術を活用して実際の授業場面を想定した模擬授業に取組み、その省察やグループ討議をとおして、学習の進め方、学習評価の考え方、教材研究の在り方、指導上の留意点等の理解の深化を図り、発展的な学習内容についても探求し、小学校音楽科の授業を設計することができる力を身に付ける。			
授業の概要			
授業では、まず小学校音楽科の教科及び各学年の目標、表現及び鑑賞の指導内容と共通事項、学習指導計画、学習評価の観点と評価方法等の理論について概説する。それらを踏まえて歌唱、器楽、音楽づくり及び鑑賞の単元内容について、具体的な指導事例を通して指導上の留意点について学習し、模擬授業に取組む。特に、模擬授業ではタブレット端末や電子黒板等を積極的に用い、情報通信技術の活用法についての理解の深化を図る。さらに模擬授業後の省察やグループ討議をとおして、学習内容論や学習方法論への理解を深め、表現と鑑賞の関わりや他教科と音楽科との関連性についても討議し、実際の音楽科の授業場面を想定した実践力を培う。			
授業計画			
第1回：社会生活と音楽、小学校音楽科の目標、各学年の目標、児童期の発達特性と音楽的発達 音楽科の学習指導計画（年間指導計画の作成、題材の構成）			
第2回：音楽学習の評価の観点と評価方法、学習指導案、「歌唱」の意義と留意点、発声の指導、指導事例と単元理解、各学年の「歌唱」の指導上の留意点			
第3回：「器楽」の意義と留意点、楽器の特性と奏法、「器楽」における指導事例と単元理解、各学年の「器楽」の指導上の留意点			
第4回：「音楽づくり」の意義と留意点、「音楽づくり」における指導事例と単元理解、各学年の「音楽づくり」の指導上の留意点			
第5回：「鑑賞」の意義と留意点、「鑑賞」における指導事例と単元理解、各学年の「鑑賞」の指導上の留意点、タブレット端末及び電子黒板等の活用について			
第6回：表現領域の模擬授業（タブレット端末、電子黒板等の活用を含む）と省察、授業改善に向け			

たグループ討議

第7回：鑑賞の模擬授業（タブレット端末、電子黒板等の活用を含む）と省察、授業改善に向けたグループ討議

第8回：まとめ（模擬授業・タブレット端末・電子黒板の活用等に関するグループ討議の振り返り、表現と鑑賞の関わり、音楽科と他教科との関連等について）

定期試験

テキスト

小学校学習指導要領 音楽編（最新版）

参考書・参考資料等

必要に応じて、適宜プリントを配布する。

学生に対する評価

小テスト（20点）、レポート（10点）、授業への参加態度（20点）、定期試験（50点）を総合して評価する。

授業科目名： 小学校図画工作科指導 法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：新井 馨
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 １．図画工作科の目標、内容、指導の理論・方法について基本的な知識を身につける。 ２．図画工作の学習評価の考え方を理解し、教材開発の力、自分なりの造形教育観を持つことができる。			
授業の概要 小学校学習指導要領の目標及び内容や美術科教育の課題について学び理解を深める。また学習指導案を作成し、学習内容の充実を図るため題材や教材研究をより進め、さらに模擬授業を通してICT活用を学びながら自らの感性をより豊かにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 図画工作科における学びについて考察 第2回：図画工作科 目標・内容構成 第3回：「表現」に関する学習指導（絵画編）—目標・内容、指導・評価方法、用具・材料の扱い方 第4回：表現」に関する学習指導（立体工作編）—目標・内容、指導・評価方法、用具・材料の扱い方 第5回：「表現」に関する学習指導（造形遊び編）—目標・内容、指導・評価方法、用具・材料の扱い方 第6回：「鑑賞」に関する学習指導—目標・内容、指導・評価方法 第7回：指導案の作成（指導計画立案・教材研究） 第8回：模擬授業と指導法（タブレット端末等・電子黒板等の活用を含む） 定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領解説図画工作編（最新版）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 ポートフォリオ40%、学習指導要領の作成40%、授業毎のレポート・積極性20%			

授業科目名： 小学校家庭科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：中西 雪夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業科目は、小学校教諭普通免許状の取得に必要な科目であり、教免法施行規則に定める「教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）」に該当する科目である。小学校教員として家庭科の授業を実施するにあたり必要な基礎的な知識・技能の修得を目的とする。			
到達目標は以下の通りである。			
(1) 家庭科誕生の背景について説明できる。			
(2) ジェンダーの視点から家庭科の意義（目標）を説明できる。			
(3) 小学校家庭科の内容全体の構成と家政学との関係を説明できる。			
(4) 家庭科で家族について学ぶ意義（目標）を説明できる。			
(5) 環境教育、消費者教育としての家庭科の意義（目標）を説明できる。			
(6) 授業の要素について説明できるとともに、要素の一つである学習者の実態を説明できる。			
(7) 教育内容研究（教材研究）の重要性を理解し、小学校家庭科の食生活、衣生活、住生活領域の教育内容研究（教材研究）ができる。			
(8) 小学校家庭科の授業において、特徴的・効果的な学習指導の在り方を考えることができる。			
(9) 小学校家庭科の評価方法について考えることができる。			
(10) ICTを活用した小学校家庭科の教材を作ることができるとともに、模擬授業をすることができる。。			
(11) 実習を指導するにあたり、基礎的な調理技能、基礎的な被服製作技能を修得している。			
(12) 実習を行う上での指導上の留意点を考えることができる。			
(13) 「将来役に立つこと」が家庭科の目的ではない理由を説明できる。			
授業の概要			
小学校家庭科の意義と授業づくりについて、小学校学習指導要領解説家庭編、小学校教科書、配布資料を用いてテキストの内容を捕捉しながら講義を進める。			
模擬調理実習（自宅で実施）、布を用いた製作実習を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／家庭科を学ぶ意義			
第2回：家庭科教育の変遷（学習指導要領の変遷）			

第3回：家庭科教育と家政学

第4回：内容A（家族・家庭生活）の授業づくり

児童の実態と授業の要素

第5回：内容B（衣生活）の授業づくり

ICTを活用した模擬授業とその改善（教育内容研究（教材研究）を含む）

技能の評価

第6回：内容B（食生活）の授業づくり

実習の目的と安全の配慮、自宅で模擬調理実習

第7回：内容B（住生活）の授業づくり

家庭科の評価／パフォーマンス評価とルーブリック

第8回：内容C（消費生活・環境）の授業づくり

家庭科の学習指導案／「いい家庭科の授業とは」

定期試験

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編」，文部科学省，問う湯尾館出版社

「小中学校家庭科の授業をつくる 5年間を見通すための理論・実践・基礎知識」，中西雪夫・小林久美・貴志倫子編著，学術図書出版社

参考書・参考資料等

「わたしたちの家庭科5・6」，鳴海多恵子他，開隆堂

学生に対する評価

上記の到達目標について

定期試験（75点）、ICT活用模擬授業（10点）、調理実習レポート（10点）、玉結び（5点）により評価を行う。

ICT教材作成の評価規準は以下の通り（評価基準は授業内で説明する）。

- ①課題提出様式・方法
- ②教育内容の適切性（衣服の特徴・着方の工夫／特徴・工夫の理由／小学校の範囲内）
- ③課題把握
- ④視聴覚教材としての適切性
- ⑤授業技術（話し方／表情）

調理実習レポートの評価規準は以下の通り（評価基準は授業内で説明する）。

- ①課題提出様式・方法
- ②計量・分配／身支度／配膳
- ③調理実習における配慮事項の考察

玉結びの評価規準・評価基準は授業内で説明する。

授業科目名： 小学校体育科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：栗原 淳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
授業テーマ：小学校体育の運動領域及び保健領域における授業設計の方法について学びます。 到達目標は、学習指導要領に示された運動の学習と健康の学習を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱と教育課程の編成を理解し、「主体的・対話的で深い学び」のための指導計画、指導案作成方法や実際の授業で運動やスポーツを楽しく実践するための学習・指導、及び楽しい保健学習の進め方、及びそれぞれの学習評価について理解をします。			
授業の概要			
運動領域では、①体づくり運動 ②器械運動 ③陸上運動 ④水泳運動 ⑤ボール運動 ⑥表現運動の各単元について、保健領域では、①健康な生活 ②体の発育・発達と心の健康 ③けがの防止 ④病気の予防の各単元について、それぞれの具体的内容について指導事例から単元理解を深め、授業実践としてタブレットや電子黒板等を活用した模擬授業を実施し、授業評価、授業改善についてグループワークを行います。また、運動領域と保健領域の関連性を踏まえた授業授業設計についても学習します。			
授業計画			
第1回：小学校学習指導要領と教育課程の編成について 第2回：運動領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上運動」における指導事例と単元理解 第3回：運動領域「水泳運動」「ボール運動」「表現運動」における指導事例と単元理解 第4回：保健領域「健康な生活」「体の発育・発達と心の健康」「けがの防止」「病気の予防」における指導事例と単元理解 第5回：運動領域の模擬授業と授業設計（タブレット端末等の活用を含む）について 第6回：保健領域の模擬授業と授業設計（電子黒板等の活用を含む）について 第7回：指導計画・指導案の作成と子どもの発達を踏まえた指導及び学習評価と授業改善 第8回：運動領域と保健領域の関連性と授業実践事例と授業設計 定期試験			
テキスト			
①小学校学習指導要領（文科省2017） ②小学校学習指導要領解説体育編（文科省2017）			

参考書・参考資料等

- ①小学校体育指導ハンドブック（佐賀県教育委員会2021）
- ②小学校体育（運動領域）指導の手引～楽しく身に付く体育の授業～（スポーツ庁HP）
- ③改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き（文科省2019）
- ④わたしの健康（小学生用）（文科省2020）

学生に対する評価

次の①②③を総合的に100点満点で評価します

- ①小テスト20点（10点×2回）
- ②授業参加態度（主体性、積極性、協調性など） 20点
- ③運動領域、保健領域の各指導案作成、授業振り返りレポート提出 60点（20点×3）

授業科目名： 小学校英語科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：園部 ニコル
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 外国語		
授業のテーマ及び到達目標 小学校での英語指導に関する教授法の基礎的な理論を習得するとともに、必要な教材開発能力と 授業実践能力を養うことを目的とする。			
授業の概要 小学校の英語指導に必要な基本的な知識とその実践力の習得を目指し、単元の流れやポイント 、ティーム・ティーチング、ICT機器の効果的な活用、近年の小学校外国語教育の研究例を検 証しながら、指導案の書き方や実践授業（模擬授業）を行う。反転授業形式で行う。			
授業計画 第1回：外国語活動・外国語の概要 第2回：単元の流れやポイントや教材の活用 第3回：ティーム・ティーチング 第4回：ICT機器の効果的な活用、 第5回：特別な配慮が必要な子供への指導の在り方 第6回：近年の小学校外国語教育の研究例 第7回：指導案の書き方 第8回：実践授業（模擬授業） 定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領外国語活動・外国語編（平成 29 年告示） 実践!新学習指導要領 基本が分かる 外国語活動・外国語科の授業 単行本 - 外国語活動・外国語科実践研究会（編集）出版社：東洋館出版社			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価 定期試験 50％、事前準備（反転授業形式）50％			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田 宏子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
①国の3つの機関の役割を理解する。			
②基本的人権の重要性を理解し新しい人権について考える。			
③自身の考えをまとめ、論理的に表現できる。			
授業の概要			
国の根本法である日本国憲法を学ぶことにより			
国の構造、基本的人権の重要性を理解することを目的とします。			
授業計画			
第1回：憲法の概要 講義の進め方について			
第2回：国民主権と象徴天皇制 （日本の国の特徴）			
第3回：国会・内閣・裁判所 各機関の役割			
第4回：三権分立の必要性和各機関の課題			
第5回：議院内閣制について			
第6回：国会議員の特権、衆議院の優越的地位について			
第7回：裁判員制度を含む司法制度について			
第8回：時事問題の検討 議論			
第9回：基本的人権・歴史と共有主体			
第10回：自由権・平等の権利			
第11回：幸福追求権について（新しい人権を考える）			
第12回：新しい人権について（代理母出産または安楽死）DVD視聴			
第13回：レポート講評			
第14回：国民の三大義務			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
新聞やネット、テレビのニュースを見聞きするよう心がけて下さい。			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
定期試験：80%、宿題・授業外レポート：10%、授業態度：10%			

授業科目名： 健康スポーツ科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田 知子・ 平野 貴章
			担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 現代社会における健康状況とその問題点を述べることができる。 2) 身体運動のメカニズムと健康、体力づくりとの関係を説明できる。 3) 運動実践の心理社会的効果や技法を説明できる。 4) 肥満、ストレス、喫煙、飲酒が健康に与える影響について説明できる。 4) 自らの健康や体力作りに関心を持つことができる。 5) これからの健康増進に積極的に取り組むことができる。			
授業の概要			
現代の健康状況や生活習慣を中心とした健康問題を解説するとともに、身体活動のメカニズムや運動効果およびスポーツ活動を通した健康・体力づくりを説明することで、これからの健康行動への実践へ結びつけていくことを目標にする。			
授業計画			
第1回：健康と社会①（現代社会の特徴と健康状況） 第2回：現代社会②（健康の概念と健康阻害要因） 第3回：健康管理①健康と栄養、運動、休養 第4回：健康管理②健康増進施策 第5回：健康の実践①ストレス 第6回：健康の実践②ストレスと運動効果 第7回：健康の実践③健康と肥満 第8回：健康の実践④健康と運動習慣 第9回：健康・体力づくり①発育・発達 第10回：健康・体力づくり②運動による体の変化 第11回：健康・体力づくり③身体運動のメカニズム 第12回：健康・体力づくり④運動行動の変容過程 第13回：健康・体力づくり⑤健康体力づくりの処方 第14回：スポーツと社会（スポーツの意義と動機付け） 第15回：まとめ・テスト			
定期試験			
テキスト			
必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
健康運動実践指導者養成用テキスト 財団法人健康・体力づくり事業財団（南江堂）、他			
学生に対する評価			
定期試験：50%、宿題・授業外レポート：30%、授業態度：10%、授業の参加度：10%			

授業科目名：フィット ネス・スポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：山田 力也・近 藤 芳昭・山口 裕嗣
			担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・理解			
・ 準備運動、整理運動の必要性を理解し、正しく実践できる。			
・ 各種スポーツのルールを理解し、マナーをもって実践できる。			
②思考・判断			
・ 各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。			
・ 安全に気を配り、他者への理解と配慮ができる。			
③関心・意欲・態度			
・ 各種スポーツを通じて、体力や健康への向上心をもつ。			
・ 用具の準備や施設整備に積極的に参加行動する。			
④技能・表現			
・ 個人やチームにおける各種スポーツの技術を高める努力をする。			
・ チームで協力し、楽しくスポーツが実践できる。			
授業の概要			
本授業では、各種の運動、スポーツを通して健康、体力の維持向上とともに、生涯と通しての健康、体力づくりが実践できる能力や態度を養うことをねらいとする。そのために、各種スポーツに親しみ、それに伴う体力や技術の向上心を養い、健康への関心を高める。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容等）			
第 2 回：体力測定			
第 3 回：体力測定（評価、まとめ）			
第 4 回：適切なウォーキング、ジョギング、ランニング			
第 5 回：屋内スポーツ（バレーボールの技術練習）			
第 6 回：屋内スポーツ（バレーボールのゲーム）			
第 7 回：屋内スポーツ（バドミントンの技術練習）			
第 8 回：屋内スポーツ（バドミントンのゲーム）			
第 9 回：屋内スポーツ（卓球）			
第 1 0 回：屋外スポーツ（テニスの技術練習）			
第 1 1 回：屋外スポーツ（テニスのゲーム）			
第 1 2 回：屋外スポーツ（ソフトボールの技術練習）			
第 1 3 回：屋外スポーツ（ソフトボールのゲーム）			
第 1 4 回：屋外スポーツ（サッカーの技術練習）			
第 1 5 回：屋外スポーツ（サッカーのゲーム）			

テキスト 必要に応じて資料など配布する。
参考書・参考資料等 「健康・フィットネスと生涯スポーツ」東海大学一般体育研究室編 大修館書店
学生に対する評価 授業態度：60%、授業の参加度：30%、その他ゲーム結果等：10%

授業科目名：ウェルネス・スポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：山田 力也・近藤 芳昭・栗原 淳・市川 浩 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 各種のスポーツのルールを理解し、説明できる。 ・ 各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。 ・ 安全に気を配り、他者への配慮ができる。 ・ 積極的に実技に参加し、みんなで楽しくスポーツを行う。 ・ スポーツ（身体運動）を継続的、習慣的に実践する意識と方法を身につける。 ・ コミュニケーションをとり、協力してスポーツが実践できる。 ・ アクティブラーニング的实践を目指し、事前調べ学習の発表やグループワークに力を入れる。			
授業の概要 本授業では、これまでの運動やスポーツ活動と新たなスポーツを通して、生涯スポーツへつなげるために必要な知識や技術および態度を身につけることができるよう指導する。また、調べ学習結果を発表するなど、自ら学ぶ態度の育成、さらに、健康づくりのために日常生活に活かせる運動の理解を高め、実践できる態度を養う。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容等） 第 2 回：適切なウォーキング，ジョギング，ランニング 第 3 回：グランドゴルフ 第 4 回：アルティメット（基本練習） 第 5 回：アルティメット（ゲーム） 第 6 回：ソフトボール（基本練習） 第 7 回：ソフトボール（ゲーム） 第 8 回：キックベースボール 第 9 回：卓球（ダブルス） 第 10 回：バドミントン（ダブルス） 第 11 回：フットサル 第 12 回：ニュースポーツ・ユニホック 第 13 回：ニュースポーツ・インディアカ 第 14 回：バスケットボール 第 15 回：ソフトバレーボール			
テキスト 健康・スポーツ科学講義 第 2 版 出村慎一（監）杏林書院			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業態度：60%、授業の参加度：30%、その他ゲーム結果等：10%			

授業科目名：英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：園部 ニコル・Patricia Brown・Mahmud Muhammad Al・Steven Sager・Nathanial DePriest・Brylko Arina
			担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 数多くの動画を見て、一般知識や世界の情報を収集することができる。			
2. 授業の導入段階で授業テーマに学習者が興味・関心を持つように工夫する授業。			
3. オンライン教材を使うことによって上手に発音できるようになる。			
4. 動画を通して異文化を理解する感覚を培うことができる。			
5. 必要な基本英単語を身につけることができる。			
6. 学習者個人やグループに課題解決を促す授業。			
授業の概要			
国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションできることを目標とする。英語コミュニケーションⅡとの関連科目である。課題を聞いて、理解して、グループで話し合う方法で勉強する。各動画から基本英単語を習得し、単語力の定着を伸ばす。半期に二回、確認テストを実施して語彙力の定着を図る。動画の理解を図るための確認テストと毎週の課題で到達度を図る。			
授業計画			
第1回：Self Introductions, Word List 1			
第2回：EC log in, TOPIC 1:Barrier Free World、Word List 2			
第3回：TOPIC 2:Apps for communication, Word List 3			
第4回：TOPIC 3:Doing things differently, Word List 4			
第5回：TOPIC 4:The safety of free WIFI ,Word List 5			
第6回：TOPIC 5:The effects of too much sugar, Word List 6			
第7回：TOPIC REVIEW 1-5			
第8回：TOPIC 6:Global food, Word list 7			
第9回：TOPIC 7:Traveling abroad, Word List 8			
第10回：TOPIC 8:Boarding a plane, Word List 9			
第11回：TOPIC 9:Deadly mosquitoes, Word List 10			
第12回：TOPIC 10:Environmental issues, Word List 11			
第13回：TOPIC 11:Topic of your choice			
第14回：ボキャブラリーテスト 課題ノート提出			
第15回：Final Test (40%) and review/feedback			
定期試験			
テキスト			
English Central (online materials)一年間			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
定期試験：40%、小テスト等：10%、受講者の発表：10%、ボキャブラリーテスト(2回)：40%			

授業科目名：英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：園部 ニコル・Gareth Newbold・Eric Raschke・Patricia Brown・Mahmud Muhammad Al・Steven Sager 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 数多くの動画を見て、一般知識や世界の情報を収集することができる。 2. グループワークでコミュニケーションに必要な表現や単語を身につけることができる。 3. オンライン教材を使うことによって上手に発音できるようになる。 4. グループでプレゼン発表をできるようになる。 5. パワーポイントを作成することができるようになる。 6. 動画を通して異文化を理解する感覚を培うことができる。 7. 必要な基本英単語を身につけることができる。 8. プレゼンテーションスキルを培う。			
授業の概要			
国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションできることを目標とする。英語コミュニケーションⅠとの関連科目である。課題を聞いて、理解して、グループで話し合う方法と一人一人発表をする。動画関連の単語を習得し、単語力の定着を伸ばす。単語確認テストを実施して語彙力の定着を図る。			
授業計画			
第1回：online access, Course details, intro, word list 1 第2回：Word list 1, EC topic 1:A flying delivery 第3回：Word list 2, EC topic 2:Everything counts 第4回：Word list 3, EC topic 3:Mom helps son with autism 第5回：Word list 4, EC topic 4:Youth choose social media over Google 第6回：Word list 5, EC topic 5: Are pandemics the new norm? 第7回：Word list 6, EC topic 6: Vacations in space 第8回：Mid term review 第9回：Word list 7, EC topic 7:Animal forecasters, presentation info 第10回：Word list 8, EC topic 8: Design and human performance, individual presentation (worksheet 1) 第11回：Word list 9, Group work (worksheet 2) 第12回：Word list 10, Presentations, Q&A 第13回：Word list 11, Presentations, Q&A 第14回：Word list 12, Presentations, Q&A 第15回：Vocab test (20%) Notebook collection Review/presentation feedback			
定期試験			
テキスト			
English Central (online materials)			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
定期試験：50%、小テスト等：20%、授業態度：10%、ボキャブリーテスト(1回)：20%			

授業科目名：データサイエンス入門	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：草場 聡宏・古賀 浩二・植田 友貴・葛原誠太・大塚 和良・小形 幸平・高元 宗一郎
			担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
●データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解する。今のAIで出来ること、出来ないことを理解する。AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解する。			
●データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解できる。データの発生現場を確認することの重要性を理解する。データの比較対象を正しく設定し、数字を比べることができる。適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明できる。文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。表計算ソフト(スプレッドシート)等を使って、小規模データを集計・加工ができる。			
●個人情報保護法など、データを取り巻く国際的な動きを理解する。データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。			
授業の概要			
●現代社会で急速に進んでいるデジタル・トランスフォーメーションについての理解をもち、データ・AIの利活用が具体的にどのように発展してきているかを知る。			
●正しくデータを読み取る力とそのために必要な統計学の基礎的概念を理解する。			
●表計算ソフトを用いて簡単なデータの集計や加工の方法を知る。			
●データ・AI利活用における留意事項と、データに関連する法律・規則を知る。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、大学の授業に参加するための準備			
第2回：コンピューターの仕組みとネットワーク			
第3回：メディア・リテラシー			
第4回：社会におけるデータ・AI利活用			
第5回：AI・データ利用の責任			
第6回：データ分析の基本			
第7回：データ・AI活用の現場 part_1（ビジネスとしてのAI・データサイエンス「データ・AI活用の現場から」） ※外部講師による講義			
第8回：データ・AI活用の現場 part_2（ビジネスとしてのAI・データサイエンス「データ・AI活用の現場：DX」） ※外部講師による講義			
第9回：各種統計データの利用			
第10回：データ・AIを扱う際の心得、留意点			
第11回：変数間の関係を調べる①～関連や相関～			
第12回：変数間の関係を調べる②～平均の差～			
第13回：変数間の関係を調べる③～多重比較～			
第14回：データ分析のレポート作成			
第15回：データ分析発表会			

定期試験
テキスト 「基礎から学ぶICTリテラシー」(日経BP社)
参考書・参考資料等 授業の中でも適宜資料を配付
学生に対する評価 小テスト等：20%、宿題・授業外レポート：20%、授業態度：20%、受講者の発表：10%、授業の参加度：30%

授業科目名：データサイエンス演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：草場 聡宏・小形 幸平・川邊 浩史・只木 進一・竹下 真帆・春田 大河 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
●データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、具体的な例を用いたレポートやプレゼンテーションができるようになる			
●表計算ソフトの関数や簡単なプログラミング言語を用いて、データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いについて、適切な可視化手法を選択し、他者に説明できるようになる			
●データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理について理解する			
●個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する			
授業の概要			
●プレゼンテーションソフトを用いて効果的なプレゼンテーションができるようになる			
●表計算ソフトを用いてデータの集計・分析を行い、その結果を可視化できるようになる			
●文書作成ソフトと他のソフトを連携させてグラフや表を用いた分かりやすいレポートを作成できるようになる			
●データ・AI利活用における留意事項とデータに関連する法律・規則を知る			
授業計画			
第1回：PowerPoint演習①（文字の入力）			
第2回：PowerPoint演習②（表の挿入）			
第3回：PowerPoint演習③（全体の見栄えを調整）			
第4回：Excel演習<集計表>①（セルにデータの入力）			
第5回：Excel演習<集計表>②（数式と関数の利用）			
第6回：Excel演習<集計表>③（書式設定）			
第7回：Excel演習<グラフ作成>①（棒グラフの作成）			
第8回：Excel演習<グラフ作成>②（グラフの要素の編集）			
第9回：Excel演習<グラフ作成>③（円グラフの作成）			
第10回：Word演習<レポート作成>①（見出しや文字の書式設定）			
第11回：Word演習<レポート作成>②（図や表などのオブジェクトの挿入）			
第12回：Word演習<レポート作成>③（全体の書式設定）			
第13回：プログラムとアルゴリズム(線形探索と二分探索)			
第14回：プログラミング基礎(Python基礎[繰り返しと条件分岐])			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
「基礎から学ぶICTリテラシー」(日経BP社)			
参考書・参考資料等			
授業の中でも適宜資料を配付			
学生に対する評価			
宿題・授業外レポート：40%、授業の参加度：60%			

授業科目名： 生涯学習論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：上野 景三
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 生涯学習の基本的理念を理解し、その社会的背景や意義について述べることができる。			
2. 人間の生涯における成長・発達の過程を理解し、説明できる。			
3. 生涯学習のための政策や施策を理解し、説明できる。			
4. 国際的な生涯学習の動向について理解し、説明できる。			
5. 生涯学習に関する施設と事業について理解し、説明できる。			
6. 生涯学習に関する専門的な職員について理解し、説明できる。			
7. これからの生涯学習の展望について、自分なりの考えを整理し説明できる。			
授業の概要			
生涯学習に関する基本的事項を理解し、教育という営みを広く深く理解することを目的とする。			
佐賀県生涯学習センターの事業統括の経験から、課題解決型講座の企画・立案の方法について講義する。			
授業計画			
第1回：生涯学習の概念についての基本的理解			
第2回：生涯学習の成立と歴史的展開			
第3回：生涯学習の社会的背景と意義			
第4回：人間の生涯と学習			
第5回：人間の生涯と成長・発達			
第6回：生涯学習の法と制度			
第7回：生涯学習の政策と展開			
第8回：生涯学習の国際的な動向（1）－欧米			
第9回：生涯学習の国際的動向（2）－アジア			
第10回：生涯学習の施設と専門的職員（1）－公民館			
第11回：生涯学習の施設と専門的職員（2）－図書館			
第12回：生涯学習の施設と専門的職員（3）－博物館			
第13回：生涯学習の施設と専門的職員（4）－子どもの生涯学習施設			
第14回：生涯学習の課題と展望（1）－AI時代の到来			
第15回：生涯学習の課題と展望（2）－人生100年時代			
定期試験			

テキスト
佐藤一子・田中雅文編『共生への学びの探求－学校社会をつなぐ市民の協働』東京大学出版会 2024
参考書・参考資料等
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所 20 17
学生に対する評価
定期試験：70%、小テスト等：5%、宿題・授業外レポート：15%、授業態度：5%、授業への 参加度：5%

授業科目名： 教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：上野 景三
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史的及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
1.教育の理念について理解し、説明できる。 2.教育・学校の歴史と思想について理解し、説明できる。 3.教育のしくみについて理解し、説明できる。 4.教育の課程について理解し、説明できる。			
授業の概要			
教育の原理及び教育課程の意義と編成方法、教育のしくみについて講義する。講義によって心身にわたる子どもの発達を支える教師としての基礎的な資質を培うことを目標とする。			
授業計画			
第1回： 教師を目指すということ			
第2回： 教育の概念1ー子どもが育つということ			
第3回： 教育の概念2ー教育のタイプとモデル			
第4回： 教育の概念3ー教育の原義			
第5回： 教育の概念4ー「教育とは何か」を問い続ける（アクティブ・ラーニング）			
第6回： 教育の歴史1ー子育てと教育の成立			
第7回： 教育の歴史2ー欧米の学校の歴史と思想			
第8回： 教育の歴史3ー日本・アジアの学校の歴史と思想			
第9回： 教育の歴史4ー教育の歴史・思想から学ぶ現在の学校の課題（アクティブ・ラーニング）			
第10回：教育の課程としくみ1ー教育の目的・教育目標・教育内容			
第11回：教育の課程としくみ2ー教育課程・カリキュラムの意義と編成方法			
第12回：教育の課程としくみ3ー学習指導要領・教科書・指導要録・通知表			
第13回：教育の課程としくみ4ー「21世紀型学力」と教育方法・教育評価(アクティブ・ラーニング)			
第14回：現代教育の諸問題1ー社会に開かれた教育課程と子どもの育ちへ求められる多様な支援			
第15回：現代教育の諸問題2ー学校の危機管理と地域の教育力			
テキスト			
汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房 2011			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
試験 60%、小テスト等 20%、宿題・授業外レポート 10%、 授業態度 5%、授業への参加度 5%			

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：橋本 健夫 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
多様性に富んだ子どもたちを将来社会に有用な市民に育てるためには、教職の充実が欠かせない。本授業においては、教職の意義、教職を担う教員の資質能力及びその役割等を理解するとともに教職への意欲を高めることを目標とする。到達目標は、次の通りである。 (1) 教職の意義 1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在を理解している。 2) 他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 (2) 教員の役割 1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 (3) 教員の職務内容 1) 児童・生徒への指導及び指導以外の公務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 2) 教員研修の意義及び制度上の位置づけ並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 3) 教員に課せられる服務上・身分上の職務及び身分保障を理解している。 (4) チーム学校への対応 1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。			
授業の概要			
現代社会における教職の重要性や教職に求められる資質能力を自分事として捉え、関係する法律や学習指導要領等を理解し、上記の一般目標と到達目標を達成するために、予習復習を伴ったアクティブラーニングを展開する。予習を基にしてグループ内で議論し、その結果をクラス全体で共有することによって、各時間のテーマを深め、最終的には、自分の言葉でまとめることになる。			
授業計画			
第1回：「本授業の狙いと授業展開及び評価方法」			
授業目標を明確にし、その達成のための授業方法と自己の役割を理解する。			
第2回：「教職とは」			
高等学校までの経験を基に、教職を規定する。その過程で関連する分野を知り、今後学修すべき分野を明確にする。			
第3回：「素晴らしい先生」			
高等学校までの先生の中から素晴らしいと思った先生を抽出し、紹介する。そして、それらの先生方に共通する資質能力を纏める。			
第4回：「教育に対する考え方」			

教育をどのように行うかについての様々な意見を調べ、現在の社会での教育を自分ならこうするとの考えをまとめる。それを歴史的な考え方と比較する。 第5回：「教育論の先駆者たち」 教育論を提唱した先人たちの考え方を調べ、現在に通じる視点を共有する。 第6回：「学校の誕生」 学校は何故生まれたのかを調べ、社会における学校の意義とその役割を追究する。 第7回：「日本の学校」 日本における学校の歴史を調べるとともに、現在に至る変遷とその意義を理解する。 第8回：「教育と学校に関する法律」 日本における教育と学校に関する法律を調べ、それらの関係を追究するとともに、教職が法律によってどのように規定されているか、教員として守るべきものを理解する 第9回：「学習指導要領とは？」 学習指導要領制定の経緯を調べ、その改訂の状況を知り、社会が目指す教育を追究する。 第10回：「最新の学習指導要領」 最新の学習指導要領を取り上げ、社会が求める教育の在り方を追究するとともに、チーム学校の考え方の重要性を理解する。 第11回：「アクティブラーニング」 アクティブラーニングとは何かを調べ、その必要性や育てる力を理解するとともに、教員の役割を明らかにする。 第12回：「教員の技能Ⅰ―発問、ノート指導等―」 教員が身に付けなければならない発問やノート指導について考え、その獲得を行う。 第13回：「教員の技能Ⅱ―学習指導案の作成及び模擬授業―」 学習指導案について調べ、作成する。そして、それを使って模擬授業を行う。 第14回：「教育評価」 教育の成果をどのように評価するかを調べ、将来に向けた評価の在り方を考える。 第15回：「将来社会と教職」 将来社会における教育を考え、それを担う教職の在り方を議論し、纏める。 定期試験	テキスト 文部科学省 学習指導要領（小学校編）（中学校編）（高等学校編）2017年、2018年 橋本健夫編 「教職をブラックと呼ばないで - 学校現場からのお願い - 」2024年 長崎文献社 参考書・参考資料等 市川須美子他編 「教育小六法」2023 学陽書房 橋本健夫編著 「子どもたちと共に」 2012年 長崎文献社 学生に対する評価 評価は次の項目ごとに評点を与え、その合計が60点以上を合格にする。 ①各授業テーマへの取組度（予習・復習ノート点検）： 30点 ②授業でのプレゼンテーションや議論への参加： 20点 ③目標に掲げる知識等の獲得度（筆記試験）： 50点
---	--

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：榎（日高） 景子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
教育とは、教師―児童生徒間に展開される個人的営みとして完結するものではない。社会的諸資源（ヒト・モノ・カネ）の整備・配置・運用に支えられ、社会や校内における明示的・無意識的な「ルール」に深く規定された人々の意識・行為からも大きく影響を受けて成立している。こう考えると、教員を目指す人は、授業・各教科の教え方について学ぶだけでなく、教育という営みを支え、ときに疎外する条件ともなりうる制度（法制度、「ルール」の束としての制度）について、広い視野で学び考えることが重要である。以上のような立場から、本講義では次の諸点を到達目標とする。 1. 教職に必要な教育制度に関わる知識（しくみ、法制度等）を獲得する 2. 現行の教育制度の枠組、課題、改革動向を把握する 3. これまでの学校体験を相対化し、新たな教育制度の構想を目指すことができる 4. 学校の社会的機能・役割を理解し、教職および市民として、それを担い支えることへの社会的責任を自覚する			
授業の概要			
本講義では、まず、教育行政・学校組織・教職員に関する法制度やその思想的基盤について解説する。さらには、法を超えた教育を動かす見えない力をも制度として捉えて、そのしくみや働き・課題・展望について考察する。その際、特に学校教育の領域を中心として、諸外国の事例も含めた具体的素材を取り上げる。以上を通じて、組織としての学校で働き、その経営(マネジメント)の一端を担う小学校教員となるために必要な資質・能力を修得することを目指す。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
本講義の概要、テーマ、留意点等			
第2回：教育制度研究の基礎概念Ⅰ ―公教育制度の原理と構造―			
義務性・無償性・中立性、学校段階・学校系統と今日的課題・論点、再編動向等			
第3回：教育制度研究の基礎概念Ⅱ ―公教育制度の法的基盤―			
教育と法の関係、教育関連法規、子どもの学習権、憲法26条：教育を受ける権利等			
第4回：学びをめぐる教育制度Ⅰ ―「学力」をめぐる制度上の課題―			
人材配分機能としての受験システム、日本型受験システムの特徴、入試制度改革等			
第5回：学びをめぐる教育制度Ⅱ ―不登校・中退と多様な学びの場の構築			

不登校・中退の状況、教育機会確保法、多様な学びの場の構築と制度上の課題等	
第6回：教えをめぐる教育制度Ⅰ	—教員評価の改革—
教職の構造的課題、教育における評価の転換、「教員評価」の課題等	
第7回：教えをめぐる教育制度Ⅱ	—教職員の職務と新たな協働—
学校組織の特徴、校務分掌、新たな職、職員会議の法的位置、学校評価に基づく協働的改善	
第8回：教育制度を支える教育行政Ⅰ	—教育委員会制度の理念—
米国スクールミーティング、民意反映説の限界から「大人の学び」「熟議」へ等	
第9回：教育制度を支える教育行政Ⅱ	—教育委員会制度の実際—
教育委員会制度をめぐる認識のねじれ、組織と役割、専門的指導性と素人統制の調和等	
第10回：教育制度を支える教育行政Ⅲ	—首長の教育への介入—
改革の論点（迅速さ・責任明確化）、方向性（総合教育会議、新教育長）、本質的課題等	
第11回：これからの教育制度の探究Ⅰ	—教師の多忙化と働き方改革—
多忙化の実態、総額裁量制、教職調整額、給特法、働き方改革の実例と課題等	
第12回：これからの教育制度の探究Ⅱ	—安全・安心の学校づくり—
リスクマネジメント、危機管理マニュアル、学校リスクの特徴、いじめ・体罰問題等	
第13回：これからの教育制度の探究Ⅲ	—地域とともにある学校づくり—
「開かれた学校」の変遷、社会に開かれた教育課程、学校運営協議会制度等	
第14回：これからの教育制度の探究Ⅳ	—格差社会と教育—
子どもの貧困、保健室の実情、就学援助制度、福祉職（SSW）との連携等	
第15回：講義のまとめ	
定期試験	
テキスト	
教科書は指定しない。配布資料を中心とし、必要に応じて適宜指示する。	
参考書・参考資料等	
・古田薫・山下晃一編著『よくわかる！教職エクササイズ7 法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、2020年。	
・高妻紳二郎編著『新・教育制度論』ミネルヴァ書房、2023年。	
学生に対する評価	
授業態度：10%、授業の参加度：20%、授業内小レポート：70%	

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：利光 恵
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育心理学の特徴と役割について説明できる。			
2. 各発達段階の特徴について説明できる。			
3. 学習のメカニズムと諸学習理論、学習の動機づけの手法について説明できる。			
4. 児童生徒の発達成長に関わる課題について理解できる			
5. 教育評価の意義と手法について説明できる。			
6. 教師の心理について説明できる。			
7. 主体的学習を支える集団形成・学習評価について、発達特徴と関連付けて理解している。			
授業の概要			
1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を説明するとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を解説する。			
2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を説明するとともに、発達を踏まえた学習支援の基礎概念を解説する。			
授業計画			
第1回：教育心理学における発達と学習の理解			
第2回：学びの意欲（動機づけ・自己効力感）			
第3回：記憶のメカニズム（作業記憶・実行機能・メタ認知）			
第4回：学びのしくみ（問題解決モデル・学修スキル・自己調整学習・分散認知）			
第5回：学びの諸相（リテラシー・読み・書き・計算）			
第6回：授業づくりとカリキュラム			
第7回：主体的な学びの学習1（発見学習・有意味受容学習・仮説実験授業）			
第8回：主体的な学びの学習2（協同学習・プロジェクト学習・オープンエデュケーション）			
第9回：個に応じた学習1（プログラム学習・完全習得学習・習熟度別学習と小集団学習）			
第10回：個に応じた学習2（チームティーチング・適正処遇相互作用・教育的評価）			
第11回：子ども社会の課題1（虐待・いじめ・発達障害）			
第12回：子ども社会の課題2（ヤングケアラー・ゲーム障害・非行）			
第13回：チーム学校			
第14回：学びと適応の評価（ポートフォリオとドキュメンテーション）			
第15回：教師の心と成長			

定期試験
テキスト 中澤 潤（編）（2022）『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房 その他適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 対面型授業を行う。各回で課題を課し、提出されたレポートを評価して成績評定を行なう。レポートは、授業終了後Teamsで提出を求める。履修者はレポートをA4用紙1枚に収まる分量（字数は問わない）で作成する。 また、授業内でグループディスカッションを毎回行う。ディスカッションへの参加度、積極的な態度で臨めているか巡視による確認を行う。

授業科目名： 特別の支援を要する児童・生徒の理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：鈴木 雅子 久野 隆裕
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
1) インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、特別支援教育の教育課程を踏まえた個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法の概要を説明できる。			
2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性および学習の過程を理解し、支援の方法について例示することができる。			
3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある児童及び生徒及び母国語や貧困の問題により特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。			
4) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。			
5) 学校（特別支援教育コーディネーターなど）・関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。			
授業の概要			
共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築を含めた特別支援教育の概要や、通常の学級にも在籍する発達障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする児童及び生徒の特性の理解の方法、自立と社会参加に向けた指導・支援に関する基礎的事項について解説する。			
また、障害のある児童及び生徒のアセスメントや各障害に応じた教育の内容及び方法、ならびに障害はないが特別の教育的ニーズのある児童及び生徒（貧困を含む）の個別の教育的ニーズに対して他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な事項や支援方法についても解説する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、特別支援教育の概要 【鈴木】			
第2回：就学先の決定、合理的配慮 【鈴木】			
第3回：特別支援教育コーディネーターの役割、発達障害の理解と支援 【鈴木】			
第4回：障害はないが特別の教育的ニーズがある幼児児童生徒の理解と支援 【鈴木】			
第5回：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の特性の理解と支援 【久野】			
第6回：特別支援学校、特別支援学級における教育 【久野】			
第7回：通級による指導、自立活動 【久野】			
第8回：個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 【久野】			
テキスト			
改訂版 小林倫代（編）教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト Gakken			
参考書・参考資料等			
教育支援資料 文部科学省（令和3年度）			
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）（平成30年3月） 文部科学省			
学生に対する評価			
宿題・授業外レポート：70%、授業態度：20%、受講者の発表：10%			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：木村 拓也
教育課程・評価論	必修科目	1単位	担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義の目標を以下の３点におく。 1) 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2) 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。			
授業の概要 学校では、教育活動をどのように計画し、実施しているのか、また教えた内容をどのように評価しているのか。教育課程と教育評価について、基本的な知識と理論の解説を行う。特に、教育課程の基本原理、カリキュラムマネジメントや教育評価の理論と実践をおさえた上で、教科教育の中での教育課程と教育評価、道徳教育や外国語活動・外国語科、総合的な学習・探究の時間及び特別活動、特別支援教育における教育課程と教育評価について具体的な事例とともに、解説し、適切な教育課程編成とカリキュラムマネジメントを行える基礎教養を習得することを講義の目的とする。			
授業計画 第１回：学校・教師にとっての教育課程 第２回：学習指導要領と教育課程 第３回：教育評価の理論と実際 第４回：カリキュラムマネジメントの理論と実際 第５回：教科教育の教育課程と教育評価 第６回：道徳教育及び外国語活動・外国語科の教育課程と教育評価 第７回：総合的な学習・探究の時間及び特別活動の教育課程と教育評価 第８回：特別支援教育と教育課程編成 定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 （各最新版） 木村浩・古田薫, 2022, 教育課程・教育評価論, ミネルヴァ書房.			
参考書・参考資料等 西岡加名恵・石井英真・田中耕治, 2022, 新しい教育評価入門, 有斐閣コンパクト. 西岡加名恵・石井英真, 2021, 教育評価重要用語事典, 明石図書.			
学生に対する評価 ペーパーテストと各講義のミニッツペーパーの提出によって行う。			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：川野 司
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 授業の到達目標は、道徳の意義や原理を踏まえ、道徳教育の目標や内容を理解するとともに、生徒に人間としての生き方と道徳性を習得させるための道徳の理論と指導法及び教職に必要な実践的指導力を修得する。 ・ 授業テーマは、道徳教育及び道徳科における道徳性について理解を深める。			
授業の概要			
・ 協同学習による能動的で活動性を高める授業を行う。 ・ 授業テーマに関する発表グループはレポート課題を提出しなくてもよいが、発表資料は各グループが印刷して全員に配布する。 ・ 発表資料は、メールで川野に授業前日までに送付して指導を受ける。 ・ グループ編成は、カードでグループ分けを行い毎回グループメンバーが変わる。 ・ 個人学習（予習）をして、レポートを提出する（1 枚以上：1 枚は1500字以上：文末に文字数を入れる）。 ・ レポートは教科書の「設問」と「考えてみよう」の自身の考えや意見をまとめる。			
授業計画	レポート	発表	
第1回：道徳の理論と指導法へのオリエンテーション	なし	なし	
第2回：道徳の時間が道徳科に変わった経緯	なし	なし	
第3回：Case11「道徳科の特質と学級活動の違い」（教科書120～124頁）	Case11	1 班	
第4回：Case12「道徳の理論と道徳教育推進教師の役割」教科書125～128頁	Case12	2 班	
第5回：Case13「道徳科に使う資料」（教科書129～133頁）	Case13	3 班	
第6回：Case14「道徳科の設問」（教科書134～138頁）	Case14	4 班	
第7回：Case15「道徳科の指導」（教科書139～144頁）	Case15	5 班	
第8回：Case16「道徳教育における言語活動」（教科書145～149頁）	Case16	6 班	
第9回：道徳科指導案作成説明（別紙資料を配付する）	なし	なし	
第10回：道徳科指導案作成（各グループで指導案を作成する）	なし	なし	
第11回：道徳科指導案発表（各グループで作成した指導案を発表する）	なし	なし	
第12回：Case17「道徳教育と道徳科の違い」（教科書150～155頁）	Case17	7 班	
第13回：Case18「道徳科における指導過程」（教科書156～162頁）	Case18	8 班	
第14回：Case19「道徳教育における体験活動」（教科書163～168頁）	Case19	9 班	
第15回：Case20「道徳教育における補充・深化・統合と道徳性」（教科書169～174頁）	Case20	10 班	
定期試験			
テキスト			
川野司著「教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力」昭和堂 2012年			
参考書・参考資料等			
小学校、中学校、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）、 小学校、中学校、高等学校学習指導要領解説道徳編（最新版 文部科学省）			
学生に対する評価			
・ 成績評価は、レポート提出状況・内容（50%）、プレゼン発表内容（30%）、定期試験結果（20%）を総合して判定する。 ・ 毎回の授業評価アンケートは、各項目にきちんと回答する。 ・ 欠席の場合は、友達にレポートを預けて当日に提出を頼むか、事前に川野に提出する。			

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：橋本 健夫
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は、横断的・総合的な学習から得た探究的な見方・考え方をを用いて課題解決を図り、自己の生き方を考える資質・能力等の育成を図る総合的な学習の時間の意義を理解するとともに、総合的な学習の時間を編成し実践することができる能力等の獲得を目的にしている。従って、児童・生徒が各教科等で培った見方・考え方を総合的に生かし、様々な事象を多様な角度から捉え、社会及び生活における課題を探究することができる授業の編成に向けて、学習論の獲得や指導計画の作成及び具体的な指導方法や評価の知識を身に付けることを目標とする。到達目標は次の通りである。 (1) 総合的な学習の時間の意義等 1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を超えて必要となる資質・能力の育成の観点から理解している。 2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解している。 (2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成 1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 (3) 総合的な学習の時間の指導と評価 1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法およびその留意点を理解している。			
授業の概要			
将来社会を担う児童・生徒の育成にとって、総合的な学習の時間が重要な役割を果たすことを理解した上で、上記の一般目標と到達目標を達成するために、主体的な予習・復習を伴ったアクティブラーニングを展開する。また、学習指導案作成などの実習的な要素を組み込み、求められる能力の獲得が自然と身に付くような授業展開とする。さらに、将来社会での課題も取り上げ、協働作業による課題解決にも挑戦する。			

授業計画

第1回：学校教育における総合的な学習の時間

総合的な学習の時間が開設された背景を調べ、その教育的な価値を理解する。

第2回：学習指導要領と総合的な学習の時間

学習指導要領の改訂と総合的な学習の時間の狙いを調べ、その方向性を掴む。

第3回：小・中・高校の総合的な学習の時間の編成

小学校から高校までに実践されている総合的な学習の時間を理解し考察する。

第4回：総合的な学習の時間を支える教育論

児童・生徒の意欲や関心を喚起し、探究過程を駆使する授業理論を理解する。

第5回：総合的な学習の時間のテーマと単元構成

地域や職業並びに生き方等をテーマとした総合的な学習の時間の在り方を考える。

第6回：総合的な学習の時間における評価

総合的な学習の時間で用いる評価の在り方を追究し、実践での適用を考える。

第7回：地域社会や自己の生き方或いは未来社会における課題をテーマとした総合的な学習の時間

地域社会等をテーマとし、探究過程を組み込んだ総合的な学習の時間を考案する。

第8回：模擬授業と考察

第7回で編成した総合的な学習の時間を模擬授業として実践し、考察を加える。

第9回：定期試験

総合的な学習の時間に関する基本的な知識・技能の定着を測る。

定期試験

テキスト

文部科学省 学習指導要領（小学校編）、（中学校編）、（高等学校編）2017年、2018年

参考書・参考資料等

日本生活科総合的学習教育学会編 生活科・総合の実践ブックレット

橋本健夫編著 「子どもたちと共に」 2012年 長崎文献社

学生に対する評価

評価は、次の項目ごとに評点を与え、その合計が60点以上を合格にする。

①各授業テーマへの取組度（予習・復習ノート点検）： 30点

②授業でのプレゼンテーションや議論への参加： 20点

③目標に掲げる知識・技能の獲得度（筆記試験）： 50点

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：佐藤 範男
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
特別活動における児童・生徒の活動を分析し、今日の教育改革の動向とあわせて、その意義を明らかにする。特に、特別活動・生徒指導・学級経営の関係性を常に意識した授業づくりを行う。また、内容ごとに理論と展開事例を考察し、特別活動の基本的性格についての理解を図るとともに、現場における実践上の課題を検討する。			
授業の概要			
特別活動の意義、目標及び内容を理解し、指導の在り方を理解する。 講義及び演習の形態で行う。			
授業計画			
第1回：心に残る学校生活と特別活動			
第2回：特別活動の目標と果たすべき役割			
第3回：学級活動の目標・内容、学習過程			
第4回：学級としての指導計画の作成			
第5回：生徒会活動の目標・内容、学習過程			
第6回：学校行事の目標・内容、学習過程			
第7回：模擬指導（演習）			
第8回：自主的実践的態度を育てるための方策			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 特別活動編、中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年 7 月 文部科学省、高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成30年7月			
参考書・参考資料等			
資料「特別活動」（授業時に配布）			
学生に対する評価			
小レポート（講義の中で実施）、課題レポート（テーマを提示し、レポートを課す）40%、 期末課題レポート（最終日に課す）60%			

授業科目名： 教育方法・技術論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：浦郷 淳
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学習者を中心・念頭においた適切な教授行為が選択できる。 2. 教育方法の歴史的展開を、社会的、経済的文脈と関連付けて説明することができる。 3. これからの社会を担う子供に求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現、個別最適な学びと協働的な学びなど）を理解できる。 4. 教員に必要な基本的な技術や授業を構成する基礎的な要件、学習評価の基礎的な考え方を理解し、それらを自身の教授行為に生かすことができる。 5. 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 6. 学校におけるICT環境を取り巻く状況を理解し、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法や子供の興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために効果的な活用方法を理解する。			
授業の概要 1. 教壇に立つ前に知っておくべき授業の構成要素、理論、歴史について幅広く説明し、適切な授業形式の選択や教材選択ができる資質・能力を養う。 2. 従来の指導方法に加え、ICT機器を活用したより効果的な授業方法について、子供の情報活用能力を高めるための指導法や情報モラル教育も含めて、具体的な授業例を提供する。 3. 予習を用いたグループワークを行い、グループ内やグループ間での協働的な学びを促す。 4. 授業進行にはICT機器を積極的に活用する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、目指す教師像、教育の目標と目的 事前学習を踏まえ、目指す教師像、教育の目的と目標についてグループで考え、まとめる。教育方法の歴史的変遷を踏まえ、教育の目標と目的、これからの社会を担う子供たちに求められている資質・能力に関する講義を受ける。 第2回：目標と評価 教育における目標と評価に関する講義を受ける。事前学習を踏まえ、授業での評価方法について、その種類や活用場面を、目標と関連させ、グループで考え、まとめる。 第3回：教育方法			

事前学習を踏まえ、教育方法の基礎理論についてグループで考え、まとめる。授業を構成する基礎的な要件や教育方法の基礎理論に関する講義を受ける。

第4回：学習指導案作成のスキル

学習指導案の例をもとに、学習指導案に必要な要素について、グループで考え、学習指導案を作成する。学習指導案作成に必要な要素について講義を受ける。

第5回：授業に必要な技術及び情報通信技術の活用の意義と理論

事前学習を踏まえ、教育に必要な基本的な技術及び情報通信技術の活用の意義をグループで考え、まとめる。教育技術・情報通信技術の活用の意義と理論に関する講義を受ける。

第6回：授業における指導の技術・評価の技術

学習指導案の例をもとに、授業を展開するうえで必要な技術をグループで考え、まとめる。授業における資質・能力を育成するための指導と評価の技術についての講義を受ける。

第7回：模擬授業と学習指導案の改善

作成した学習指導案をもとに、グループ内での模擬授業を実施する。実施した模擬授業のリフレクションをもとに、学習指導案の改善を図る。

第8回：教育の方法と技術

「教育にとって必要な方法とは何か」「これからの子供に求められる資質・能力は何か」「学習環境とは何か」「指導と評価の重要性」について、グループワークを通してこれまでの学びを整理する。総括の講義を受ける。

テキスト

プリント資料を配布

参考書・参考資料等

文部科学省（2017・2018）『学習指導要領』

（希望免許種：養護教諭・栄養教諭希望の場合は小学校）

高橋純編集（2023）『教育方法とICT』学文社

学生に対する評価

1. 振り返りシート5点（提出1点・規定文字1点・内容3点）×8回＝40点
 - ①規定文字数100字以上300字以内
 - ②内容：各1点（・自らの学び方の振り返り・授業で得た学び・活用可能な場所）
2. 学習指導案の提出1回目（第4回）…5点（提出1点・授業内での書き込み1点×4ヶ所）
3. 学習指導案の提出2回目（最終回）…20点（提出1点・修正10点・必要事項記入9点）
 - ①修正点…授業を経て初めに作成した学習指導案からの修正が見られているか。
 - ②必要事項記入…学び得た学習指導案に必要な視点が正しく記入されているか。
4. グループワークを通じた個人成果物（第1・2・3・5・6回）4点×5回＝20点
5. 最終レポート15点

授業科目名： 情報通信技術の活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：古賀 浩二 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の論理及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校教育において、情報通信技術を応用しその効果を向上させるための情報・通信技術の基礎を学び、遠隔授業やデジタル教材の利用を通して、学修指導や校務に対する情報通信技術の簡単な応用を習得する。更にその過程で情報モラル等を含む情報通信技術の活用能力を育成するための基礎的な指導法を習得することを目標とする			
授業の概要			
・ 情報機器及びインターネットを中心とした通信の仕組みを理解し、それらを取巻く利用の実際に関連したモラルと悪意のある利用などを含む利用実態を理解する。 ・ 情報機器を用いたデジタル教材の作成を理解し、デジタル教材を利用した個別最適なまなびや協働的な学びへの応用を理解する。 ・ CMSやLMSの授業への導入理論・方法の概説。 ・ 実機やシステムを使った演習を通して、インターネットを利用した遠隔授業の仕組みや、遠隔教育の意義や使用法を理解し、授業計画、CMS等を利用した授業展開・指導方法や学習評価への効率的な活用を学び、更に成績等をデータ化して、生徒一人一人の学習状況を示す方法等についても学習する。 ・ 簡単な遠隔授業の実施(発表会)を通して、教科等の特性に応じた指導方法を理解し、基本的な指導法を身に付ける。			
授業計画			
第1回：学校教育における情報通信技術の活用1(学習指導要領を中心とした情報機器の活用) 第2回：学校教育における情報通信技術の活用2(教育方法・評価の理論を理解する) 第3回：情報機器とコンピュータの仕組み・通信の仕組みとネットワーク 第4回：情報通信に関わるモラルと実態 第5回：CMS・LMSの種類と仕組み、機能と利用及び校務への導入事例 第6回：情報機器を利用した遠隔授業教材の作成 第7回：作成教材やCMSを利用した演習 第8回：作成教材及び発表等に対する評価(相互評価含む)と授業課題の説明			
テキスト			
毎回授業資料を配布			
参考書・参考資料等			
情報通信白書（ICT白書）総務省発行			
学生に対する評価			
授業に対する取組及び授業中に課する課題(及び発表)により評価する			

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中島 慎一
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 生徒指導の意義や原理を理解する			
授業の概要 生徒指導の意義や機能及び学校現場における具体的な内容等についての理解を深める。			
授業計画 第1回：生徒指導の概念と機能的特性について 第2回：生徒指導の意義と指導の実際 第3回：学習指導と生徒指導 第4回：生徒指導の理論と方法(児童生徒理解) 第5回：生徒指導の理論と方法(個別指導と集団指導) 第6回：生徒指導の理論と方法(学校教育相談) 第7回：生徒指導の理論と方法(生徒指導体制) 第8回：暴力行為への対応と「いじめ防止対策推進法」 第9回：いじめの実態と対応について(情報モラル含む) 第10回：不登校の現状について 第11回：不登校対応の実際 第12回：関係諸機関との連携(虐待含む) 第13回：生徒指導と特別活動(タブレット端末等の活用を含む) 第14回：学級活動(生徒指導中核の時間・電子黒板等の活用を含む) 第15回：総括 定期試験			
テキスト 生徒指導提要 文部科学省			
参考書・参考資料等 適宜紹介する			
学生に対する評価 レポート・小テスト			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：吉村 春生 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 教育相談の目的と意義、教師が果たす役割について説明できる。			
2. 乳幼児期・児童期・青年期の心の発達と危機について説明できる。			
3. 学校ストレスと適応について理解できる。			
4. 心の問題の種類と対応について理解できる。			
5. カウンセリングの基礎的な理論や技法について理解できる。			
6. カウンセリングの基本的な視点を取り入れた教育相談を考案できる。			
7. 教育相談に必要な校内体制の整備や専門機関等との連携について理解できる。			
授業の概要			
今日の心の問題に対して教師がどのように理解し対応していくのがよいのか。また、心の問題を予防する学校環境とは何かを明らかにすることは教育的課題である。そこで、本講座では、幼児・児童・生徒の心の発達と危機や、学校現場で生じやすい様々な問題の紹介を通して、教師が果たす役割や機能について考えを深め合う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、成績評価の方法と基準についての説明）【演習Ⅰ．自己開示】			
第2回：教育相談の目的と意義			
第3回：教育相談の組織と役割			
第4回：教育相談に生かすカウンセリング①（学習・行動理論の活用）			
第5回：教育相談に生かすカウンセリング②（精神分析・成長理論の活用）【演習Ⅱ．描画法と家族】			
第6回：乳幼児期の心の発達と危機			
第7回：児童期、青年期の心の発達と危機			
第8回：学校ストレスと適応【演習Ⅲ．ストレス反応テスト】			
第9回：心の問題の種類と対応【演習Ⅳ．スクリーニングテスト】			
第10回：発達障害児の理解と援助			
第11回：教育相談の実際①（不登校の経過と段階に応じた支援）			
第12回：教育相談の実際②（いじめ問題や反社会的行動の理解と支援）			
第13回：教育相談の実際③（描画法を用いた心の健康づくり）【演習Ⅴ．ステンドグラス法】			
第14回：教育相談の実際④（遊戯療法を用いた心の健康づくり）【演習Ⅵ．お気に入り活動】			

第15回：教育相談体制づくり（見立てに応じた支援の場の提供） 定期試験は実施しない。
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 「教師のための学校カウンセリング」小林正幸・橋本創一・松尾直博編（有斐閣アルマ）
学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出する小レポート等（70％） レポート試験（30％）

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山田 力也
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解している。			
・ 進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を説明できる。			
・ キャリア・カウンセリングとポートフォリオの活用について説明できる。			
・ 学校内外の連携も含めた対応のあり方を説明できる。			
授業の概要			
進路指導・キャリア教育の意義と現状、キャリア・カウンセリングとポートフォリオの活用、校内外との連携、職業体験・インターンシップ等の授業テーマと現代社会の動向と若者の労働意識・問題等を踏まえた講義とグループワーク、レポート作成の一連の過程のなかで理論と指導のあり方を学んでいく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション及び予備討議（キャリア教育の意義について）			
第2回：進路指導・キャリア教育の意義と原理			
第3回：進路指導・キャリア教育の現状と指導体制			
第4回：キャリア教育のカリキュラム構築			
第5回：進路指導・キャリア教育とカリキュラム・マネジメント			
第6回：キャリア・カウンセリングとポートフォリオの活用			
第7回：家庭・地域・機関との連携と職業体験・インターンシップ			
第8回：これからの社会とキャリア教育			
定期試験			
テキスト			
特になし（授業内で適宜資料を配布する）			
参考書・参考資料等			
小泉令三（2019）生徒指導・教育相談・キャリア教育―子どもの成長と発達のための支援―			
学生に対する評価			
レポート（20％）、討議における発表内容等（30％）、試験（50％）			

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (小・中・高)		単位数：2単位		担当教員名：中島 慎一、栗原 淳、 橋本 健夫	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20 人					
教員の連携・協力体制 専門教育科目系統図により、教職教育と教科専門科目履修過程を明確にし、すべての教員が教職課程を視野に各担当専門科目の教育、指導を行っている。					
授業のテーマ及び到達目標 1) 教育に対する使命感や情熱を持ち、生徒の成長・安全・健康を第一に考え、適切に行動することができる基礎的な資質能力を有している。 2) 社会・組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して校務を遂行し、保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる基礎的な資質能力を有している。 3) 生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解した上で、規律ある学級経営を行う基礎的な資質能力を有している。 4) 学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）と授業を行う上での基本的な表現力（板書、話し方、表情など）を身に付け、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業展開や学習形態等を工夫することができるとともに、教科外の活動においても生徒に対して適切な指導を行うことのできる基礎的な資質能力を有している。					
授業の概要 これまでの教職課程科目の履修を通して学んだことや教育実習において経験したことのふりかえりを通じて、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認することをねらいとする。各回の授業では、教職観、生徒理解、学級経営、教科の指導力、生徒指導などをテーマとして扱う。					
授業計画 第1回：授業ガイダンス、教職課程における学修の振り返り【栗原（中島）】 第2回：教育実習の振り返り及び、課題の整理【中島】 第3回：教師の資質能力について【中島】 第4回：教師の倫理観、社会人のモラルについて【中島】 第5回：授業改善と学習環境づくり（ICT活用を含む）【中島】 第6回：教職の意義と教員の役割（まとめ）【中島】 第7回：学校経営：校務分掌からみる学校経営【中島】 第8回：学級経営：共通課題の解決と啓発を図る学級経営【栗原】					

第9回：学校現場の現状と危機管理（1）いじめ対策【栗原（中島）】

第10回：学校現場の現状と危機管理（2）学校安全・防災【栗原（中島）】

第11回：教育現場の状況理解①【外部講師（予定）】※12月集中講義

第12回：教育現場の状況理解②【外部講師（予定）】※12月集中講義

第13回：作成したパワポをもとに自分の意見を発表し、質疑応答を行い、課題をクラスで共有する。【橋本】

第14回：予習で考えた課題等を紹介し共有する。その中で最も重要な課題について論議する。【橋本】

第15回：教職の意義と教員の役割（教員として必要な資質能力の確認）【栗原（中島）】

テキスト

「教職履修カルテ（4年前期まで記入済）」を使用するので、毎回持参すること。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

小テスト等：30%、授業態度：10%、受講者の発表：20%、授業の参加度：10%、学習指導、生徒指導、実習態度等に基づく実習校からの評価など：30%